

朝日工業グループレポート2014発行のお知らせ

朝日工業グループの事業活動、財務情報、2013年度における環境活動、社会活動をみなさまにわかりやすく報告することを目的として、朝日工業グループレポート2014を発行いたしました。

詳細につきましては、朝日工業ホームページに掲載しております。

URL

<http://www.asahi-kg.co.jp/index.html>

■レポートのダウンロード

<http://www.asahi-kg.co.jp/ir/library/annualreport.html>

■環境活動、社会活動の詳細

<http://www.asahi-kg.co.jp/csr/index.html>

朝日工業株式会社

〒170-0013

東京都豊島区東池袋三丁目23番5号 Daiwa東池袋ビル

TEL : (03)3987-2161 FAX : (03)3987-5326

URL : <http://www.asahi-kg.co.jp/>

Email : asahikg@asahi-kg.co.jp

株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

当社グループの第1四半期累計期間の決算情報を、お知らせいたします。

当第1四半期累計期間の日本経済については、政府の経済政策などの効果もあり、緩やかな回復基調にありました。当社グループに関連のある建設需要は、鉄筋需要で職人不足による影響が残っているものの、全体としては堅調に推移しました。

当社鉄鋼建設資材事業に関しては、2014年2月の大雪の影響で、製鋼工場の操業を停止していましたが、鋼塊を他社から購入し、鉄鋼製品を製造してまいりました。しかしながら、仕様の関係から調達できる鋼塊数量が限られていたことにより製品の販売数量が大幅に減少し、さらに、購入鋼塊は自社製造品よりコスト高となるため、前年同期に比べ減収減益となりました。

製鋼工場は6月19日から再稼働を始め、早期に安定操業となりました。みなさまには多大なご心配をおかけしましたが、今後は、回復基調にある建設需要を確実に取り込み、受注につなげ、これまでの遅れを取り戻すべく、全力で取り組む所存です。収益の安定している農業資材事業などについても、販売拡大を目指します。そして、今期は黒字化へつなげ、みなさまのこれまでのご声援に応えたいと考えております。

株主のみなさまにおかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年9月
代表取締役社長 赤松 清茂

種苗事業に新たにラインナップが増えました

カボチャとキュウリの新品種

朝日のカボチャは「プリメラ」と名付けられました。スペイン語で「1番」を意味します。ほくほくして甘くて美味しいのは勿論、うどんこ病などの病気にも強いので、減農薬栽培が可能であり、安心安全なカボチャとしても満足していただけます。また、果肉は厚く濃い黄色であるためカット販売にも向いていますので、スーパーマーケットやデパートでの評判も良好です。朝日のトマト「アニモ」に次ぐ人気になること間違いなしです。

次にキュウリについてですが、「キュウリはどれも同じ」と思われていますが、朝日のキュウリはみずみずしくシャキシャキとした食感にすぐれ、美味しい!といただける自信作です。また、多収性、優れた耐病性、栽培のしやすさなどを特徴にしています。



現在、来シーズンの種子発売に向けて、カボチャもキュウリも生産者による試験栽培が拡大しています。どちらも「耐病性」を特徴にしており、幅広い栽培条件にも対応しているため、農家のみなさまにも好評です。

みなさまの食卓においしさと笑顔をまもなくお届けいたします。ご期待下さい!



料金後納郵便

+
+
+
+
+

株主通信 朝日工業だより 2014年9月(第14号)

朝日工業株式会社 証券コード 5456 (JASDAQ)

株主名簿管理人 三井住友信託銀行
連絡先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

●本報告書は2014年3月末時点での株主の皆様にお送りしています。

第24期(2015年3月期)第1四半期累計期間について

鉄鋼建設資材事業

操業を停止していた製鋼工場は、2014年6月19日に再稼動しました。再稼動までは、他社から鋼塊(ビレット)を購入して圧延工場を操業し、製品供給を続けました。しかし、鋼塊購入可能数量が限られていることから製品販売数量が減少し、前年同期に比べ減収となりました。また、購入した鋼塊は自社の鋼塊よりコスト高であることから、前年同期と比べ減益となりました。

農業資材事業

肥料事業では、消費税の前倒し出荷の反動が発生しました。反動の影響を最小限に抑えるべく、有機質肥料の販売拡大に努めましたが、前年同期と比べ減収減益となりました。

園芸事業では、シーズン企画展開や新アイテム導入などにより、ホームセンターへの販売が拡大したことから、前年同期と比べ増収増益となりました。

種苗事業では、大玉トマト「アニモ」の栽培面積拡大を達成するため、トマト生産農家の巡回を繰り返し実施しました。

乾牧草事業では、徹底した仕入コスト削減などにより、前年同期と比べ増益となりました。

環境ソリューション事業

放射能測定などの復興関連業務は堅調に推移しましたが、一般分析が前年同様の分析数量を下回ったことから、前年同期と比べ減益となりました。

砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業

砕石砕砂事業では、引き続き好調な製品需要を背景に販売数量が拡大したことや、マテリアルリサイクル事業で木くずの集荷量が拡大したことから、前年同期と比べ増収増益となりました。

当第1四半期連結実績・通期連結業績予想について

	第1四半期 連結実績	通期業績 (予想)
売上高(百万円)	7,499	41,000
営業利益(百万円)	△462	1,400
経常利益(百万円)	△418	1,350
四半期(当期)純利益(百万円)	△672	550
1株当たり四半期(当期)純利益(円銭)	△96.09	78.57

セグメント別売上高およびセグメント利益

		2014年3月期 第1四半期実績	2015年3月期 第1四半期実績
セグメント別売上高	鉄鋼建設資材事業(百万円)	6,570	3,941
	農業資材事業(百万円)	4,114	2,941
	環境ソリューション事業(百万円)	153	114
	砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業(百万円)	461	488
	その他(百万円)	76	33
	調整額(百万円)	△71	△20
計(百万円)		11,306	7,499
セグメント利益	鉄鋼建設資材事業(百万円)	△188	△491
	農業資材事業(百万円)	474	246
	環境ソリューション事業(百万円)	△13	△24
	砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業(百万円)	39	50
	その他(百万円)	2	△9
	調整額(百万円)	△281	△234
計(百万円)		33	△462